

短 報 Short Communication

ヤマゲラによる発泡スチロール製人工営巣木の利用

築田貴司¹・樋口広芳²

1. はじめに

キツキ類は樹洞に穴をうがって営巣する。多くの種類は枯れ木、あるいは生きている木の枯れた部分に好んで穴を掘る。こうした場合、キツキ類にはしばしば林内の特に太い木を選んで穴を掘る。また、穴を掘るのにある太さ以上の木がないと、その林内では繁殖しないことがある。したがって、近年の自然林の大規模な伐採や老齢木の選択的な伐採は、キツキ類の営巣場所を急速に減少させることになっている。

こうした状況に対処するひとつの方策として、北アメリカでは発泡スチロール製の人工木を林内に設置する試みが行なわれている (Peterson & Grubb 1983)。しかし、これまでのところ、冬のねぐら用に穴を掘った例がある以外、キツキ類がその種の人工木に穴をうがって繁殖した例は知られていない (Peterson & Grubb 1983)。われわれは1989年4月、発泡スチロール製の人工木を北海道ウトナイ湖畔に設置し、ヤマゲラ *Picus canus* を営巣させることに成功した。本報文は、その観察記録を報告するものである。

報告するにあたり、人工木の製作などにご助言いただいた北九州支部の北脇英雄氏、設置および観察、撮影に協力していただいた磯千恵子氏、石川慎也氏、松田光輝氏、報告書をまとめるにあたってご助言をいただいた大畑孝二氏に厚く御礼申し上げる。

2. 人工営巣およびその設置

今回使用した人工営巣木は、発泡スチロール製で高さ90cm、直径40cmの円筒形のものである。まず周辺環境に溶け込ませ、キツキ類が警戒しないよう、着色を施した。色はこげ茶とし、市販のスプレー式ラッカーを使用した (図1)。これはA、B、2地点に各1個ずつ設置した。A地点はヤチダモ *Fraxinus mandshurica*、ハンノキ *Alnus japonica*、バッコヤナギ *Salix hultenii* が多く、平均樹高4m程の明るい疎林、B地点はコナラ *Quercus serrata*、ミズナラ *Quercus mongolica* が多く、平均樹高7m程の林になっている。

設置するに当たっては、少しオーバーハングするよう、傾いた幹を選び、また巣穴を掘った際に正面がある程度ひらけた環境になるよう配慮した。固定にはロープを使い、両脇にドラミング用として長さ90cm、太さ10cmの丸太をはさみ込んだ。A、B両地点での設置状況は以下の通りである。

A地点 (図2) 取り付け位置 (地面～底) 1.8m

方向 北北西

樹種 ヤチダモ

トレイルからの距離 13m

B地点 (図3) 取り付け位置 (地面～底) 2.0m

方向 西

樹種 ミズナラ

トレイルからの距離 21m



Fig. 1. Polystyrene cylinders used in this study.



Fig. 2. Setting condition at A study point.



Fig. 3. Setting condition at B study point.

3. 観察記録

取りつけは4月13日に行なった。その後5月17日まではA地点（以下“A”）B地点（以下“B”）とも利用を確認できなかったが、5月22日、Bに巣穴があいているのを大畑孝二チーフレンジャーが発見した。以下にBの観察記録を記す。

89年4月13日 取りつけ

5月17日 変化なし。

5月22日 Bに巣穴を確認。A地点は変化なし。

6月8日 Bを利用しているのがヤマゲラであることを確認。

14:00~15:45の間観察

14:14 声なし、まわりを飛びまわる。

:15 巣穴にとまる。ヤマゲラ雌。

:20 巣穴にとまる。首をかしげる、あくび、羽づくろい。

:25 飛び立ち、鳴きながら行ってしまう。

:28 鳴く。

:35 鳴く、声が遠ざかる。

:48 鳴く、巣穴にとまる。雄、顔を出す。

15:00 鳴き声。

:16 左の方（方角的には北）へ飛んで行く。

:24 鳴き声遠くなる。

6月9日 15:40~16:45 観察。

巣の付近にまったくいない。遠くで声が聞こえるのみ。

6月10日 5:10~8:00 観察。

5:10 顔を出してのぞいている雄（図4）。

:22 引っ込む。

:30 顔を出す（2回引っ込む）。

:48 穴の中で鳴く。

:50 ”

:53 ”

:55 飛び出す。

近くの木でしばらく鳴き、その後、頭をかいたりしている。

6:02 どこかへ飛んでいく。

7:03 近くで鳴く。

:05 巣から3メートルのところで鳴く雄。

:20 声が遠くなっていく。

15:40~16:50 姿、声確認できず。

6月30日 14:20~16:00 観察。姿、声確認できず。

14:31 アカゲラ雄1羽確認。

:34 ” 穴をのぞく。しばらくの間顔を出し入れしたのち、
穴以外の部分をつつく。

15:24 姿を消す。その後、ヤマゲラ、アカゲラとも確認できず。



Fig. 4. A male Gray-headed woodpecker looking out of the nest-hole.

4. 巣穴の計測など

Bの巣は6月10日を最後に親鳥の出入りが確認できなくなり、6月30日にはアカゲラが出入りしていた。このためヤマゲラが完全に放棄したと判断し、7月19日に回収。展示用とするため電熱線を使って切り割ってみた(図5)。

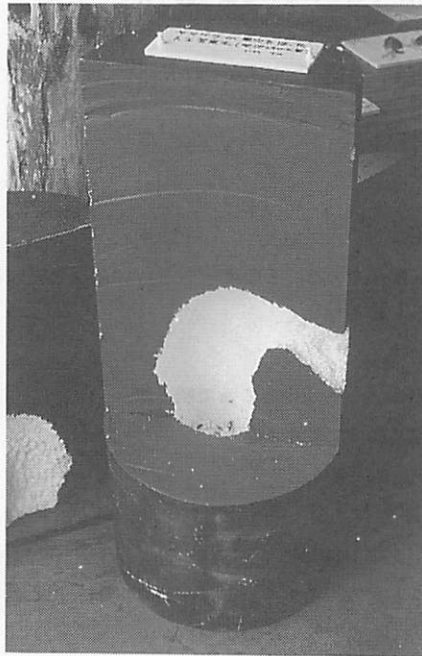


Fig. 5. The inside of the nest cavity.

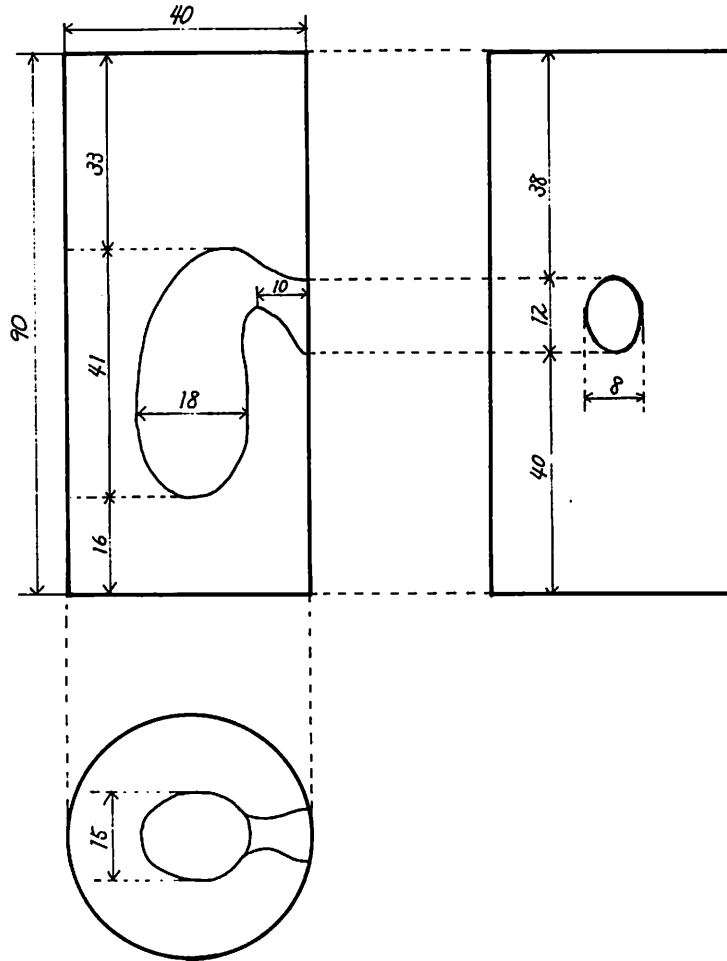


Fig. 6. Measurements (cm) of some parts of the nest cavity.

巣穴の内容量は約5,600ccあり、中にはつuitた時のものと思われる発泡スチロールのくず約200ccと羽毛が少々入っていた。

巣の穴の大きさは、全体に標準（清棲 1978）より大きめであった（図6）。

5. 考察

今回はヤマゲラが営巣したが、途中巣を放棄し、産卵まで至らなかった。その原因として以下の3点が考えられる。

- ① 観察者による営巣妨害
- ② ほかの個体との競合
- ③ 人工営巣木の材質

それぞれについて考察してみる。①に関しては、観察位置と巣の位置が21m離れていた上、観察を行なった6月には周辺の樹木および下ばえがうっそうと茂っていたことと、6月11日から29日までは抱卵に入っている可能性を考えて観察を控えていたことから、巣を放棄させた原因とは考え難い。

②についてはB地点の南南西約130mの位置にアカゲラが自然木を使って営巣していたが、この程

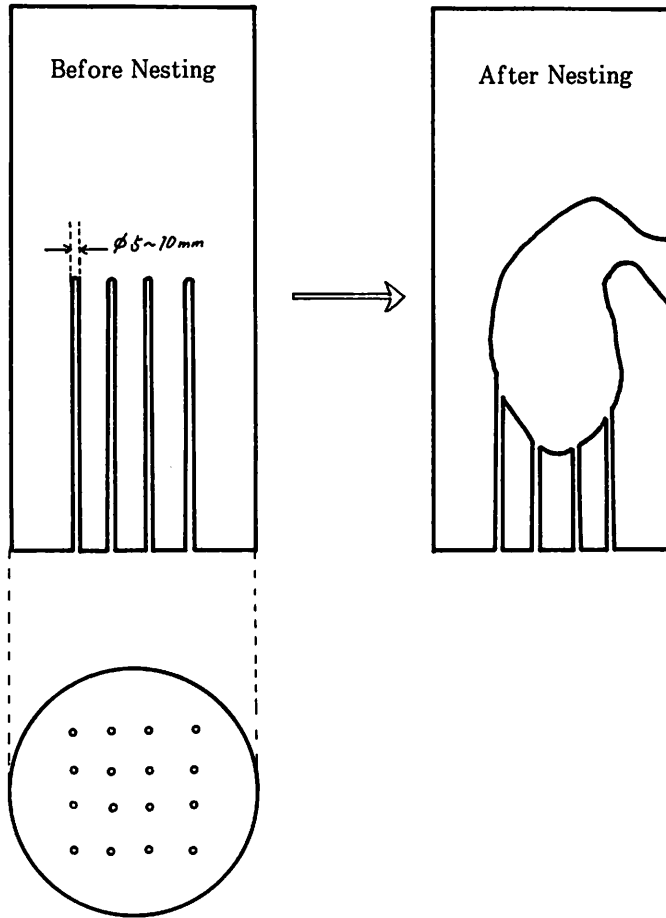


Fig. 7. A new model of the polystyrene cylinder for nesting woodpeckers. Some fine holes are opened inside the cylinder for ventilation.

度距離が開いていれば競合が起きることはないと思われる (Blume 1961)。むしろ、ウトナイ湖周辺の林にヤマゲラの営巣に適した木が少ないことを考えれば、同じヤマゲラどうして巣の取り合いが起きることは考えられる。

③については、発泡スチロールが木材に比べて保温性に優れている反面、通気性および透湿性・吸湿性が極端に悪いため、ヤマゲラの抱卵・育雛に支障をきたすことが充分考えられる。

今後人工営巣木自体に改良を加えるとすれば、1)あらかじめ通気および湿気抜きの穴をあけておく (図7)、2)材質自体を木材に近い特性をもったものに変える、の2点が考えられる。特に材質については、キツツキが巣穴を掘るさいに周辺へつついたくずを散らすことを配慮して、土に還すことのできる材質にするのが望ましいと思われる。

引用文献

原田修・佐野清貴. 1988. 巣箱によるアカゲラの繁殖. *Strix* 7: 288~290.

- 清棲幸保. 1978. 日本鳥類大図鑑 I. 講談社, 東京.
- 黒田長久. 1982. 鳥類生態学. 出版科学総合研究所, 東京.
- Peterson, A.W. & Grubb, Jr. T.C. 1983. Artificial trees as a cavity substitute for woodpeckers. *J. Wild. Manage.* 47: 790~798.
- Blume, D. 1961. Über die Leben Sweise einiger Spechtarten (*Dendrocopos major*, *Picus viridis*, *Dryocopus martins*). *J. Orn.* 102 (1) : 4~115.

1. 〒059-13 苫小牧市植苗150-3 (財) 日本野鳥の会ウトナイ湖サンクチュアリ
2. 〒150 渋谷区東2-24-5 (財) 日本野鳥の会研究センター

Nesting of Gray Headed Woodpeckers in an artificial cylinder

Takashi Tsukida¹ · Hiroyoshi Higuchi²

Two polystyrene cylinders 90cm high × 40cm diameter were placed in the Utonai-ko Sanctuary of Hokkaido in April 1989.

One of them was used for nesting by the Gray-Headed Woodpecker *Picus canus*, but no eggs were laid. The diameter of the nest entrance was 8cm × 12cm, and the size of the nest cavity was 15cm × 18cm × 41cm (5,600cc). The woodpeckers may have abandoned the nest because the flowing-air-and-moisture quality of the artificial tree was not good.

1. Utonai-ko Sanctuary, 150-3 Uenae, Tomakomai-shi, Hokkaido 059-13
2. Research Center, The Wild Bird Society of Japan, 2-24-5 Higashi, Shibuya-ku, Tokyo 150

1989年11月15日受理